

河内名水記卷四



紫羅都

丹波

志理堂

日か

同

仲哀天宮

廟 志紀郡

米田八幡

古市郡

碓井

日か

同

道の寺

志紀郡

及正天皇

山廟 丹波郡

葛井寺

日か

惣社

志紀郡

大田

志紀郡

本木

日か

大井

日か

小山

日か

雄略天皇

山廟 丹波郡

保親

住持 日か

兜ヶ池

日か

大極

保親 山廟 日か

極山

日か

| | | | |
|--------|-----|-----|-----|
| 允恭天皇御廟 | 日か | 為林 | 丹波 |
| 瀧寺 | 日か | 風破 | 日か |
| 代亥寺 | 日か | 城 | 日か |
| 肥前清水 | 日か | 橋本 | 日か |
| 舟橋 | 日か | 油 | 日か |
| 富宗神社 | 日か | 道 | 日か |
| 小糸天祥 | 日か | 坂本 | 日か |
| 柏原 | 日か | 布 | 日か |
| 長谷根 | 八上郡 | 長谷根 | 八上郡 |
| 弓削 | 日か | 金田 | 日か |
| 沼村 | 日か | 花田 | 日か |

柴離之郡

人王十九代及正天皇の皇孫都河内丹比是謂

丹波郡 喜原乃庄 廣場とつゝあつたむら
の皇孫のつゝあつたむら
天祥の社まゝまは四方一系ありて小
まゝとこと一海ありておのゝまゝなり

意辨

柴垣のまゝとて居るもそとからみはさうさう
柴垣のまゝとて居るもそとからみはさうさう
ひくもくもくゆふ柴垣の勢



○志理の松丹中郡去原の石間西天の社也

社名

利光

志理の松丹中郡去原の石間西天の社也

曰

松原

素とまてうら孫の松丹中郡去原の石間西天の社也

葉やうきん比羽葉を松の枝

意羽

珠り来たを志理の松丹中郡去原の社也

如負

ふらりすうたを志理の松丹中郡去原の社也

蒸水

○人皇十六代仲哀天皇御沖廟は回於在之陵也

○卷田八幡

人皇十六代仲哀天皇御沖廟は回於在之陵也

人皇十六代欽明天皇御沖廟は回於在之陵也

建武則天皇御沖廟は回於在之陵也

ありて年二月十日は初春をてて一寺中は系統也

この寺は代々の帝王の例にまうる也初春をてて一寺中は系統也

本社中ハ八幡右ハ神初皇者たハ仲哀天皇御沖廟也

外ハあまわりの外本社也一今ハ社名曰人あり

神直等あり神子又人あり寺ハ護国寺名言宗也

奥院ハ寶蓮寺律儀也社僧十又ありの廟也

は栢木本は廟也本は堂ハ護国寺也

堂舞臺卷樂をあり奥院ニ本堂有るり搗あり
縁起ハ昔廣法義教以養以上又是有繪土佐の盛
なり卯月つるあ又つは神子車樂二系海公日能見
の舞と聞きよこれあり八月十日ハ奥おは伶人
舞あり正月十日月新といふもくまけのよ水と板月
とりの二年中此水計何合と初祿宜の役也搗の場を
は搗下并は神功自皇おあつと夫と納ありふ不交後を
あり清ハ杉約沖家進則建久二年と初ありは
樂并沖長刀同沖家を沖初不境門廻り又町
写方社傾代くお軍沖初初あり

推命

元信

八幡とつやとつやのあたとさむい色地といふ人回りの

及次

拓れ本づいふ人回りの山つ系ハ幡うれそり

日

可屬

卷田よはいくさかす神とく川いさかして友よあれ

- 月乃あや針心すすもれ鏡餅 津宣
- 花ちくはら方風うらひ巻田 梅原
- むろ波小紐ひ小蝶と破らふ 冬底
- かみひらん田八幡咲とら花登 一之
- 花れ枝や危つこれ五と初えと 若哲

八幡そんりちえん、江戸橋
 貝橋八まんほまうこそたのりか
 貝橋かんく汲酒やえんくた
 花橋の河能や出まふえん回
 わさゆなうくえんちのひらえん
 車樂ハ八ゆんえんいあん田
 曹なうて一ちりり名条ま都云
 ぐたあん田なうぬいふ都云
 都云が都断神やけりりり
 きつてあん田八まんりり河内
 王とていりゆりり男末無回田
 黒水
 典傳
 一十
 一利
 一衆
 以強
 一十
 同

八幡そんりちえん、江戸橋
 貝橋八まんほまうこそたのりか
 貝橋かんく汲酒やえんくた
 花橋の河能や出まふえん回
 わさゆなうくえんちのひらえん
 車樂ハ八ゆんえんいあん田
 曹なうて一ちりり名条ま都云
 ぐたあん田なうぬいふ都云
 都云が都断神やけりりり
 きつてあん田八まんりり河内
 王とていりゆりり男末無回田
 黒水
 典傳
 一十
 一利
 一衆
 以強
 一十
 同

養田八幡宮

河内縣卷四

天皇御所

松の宮

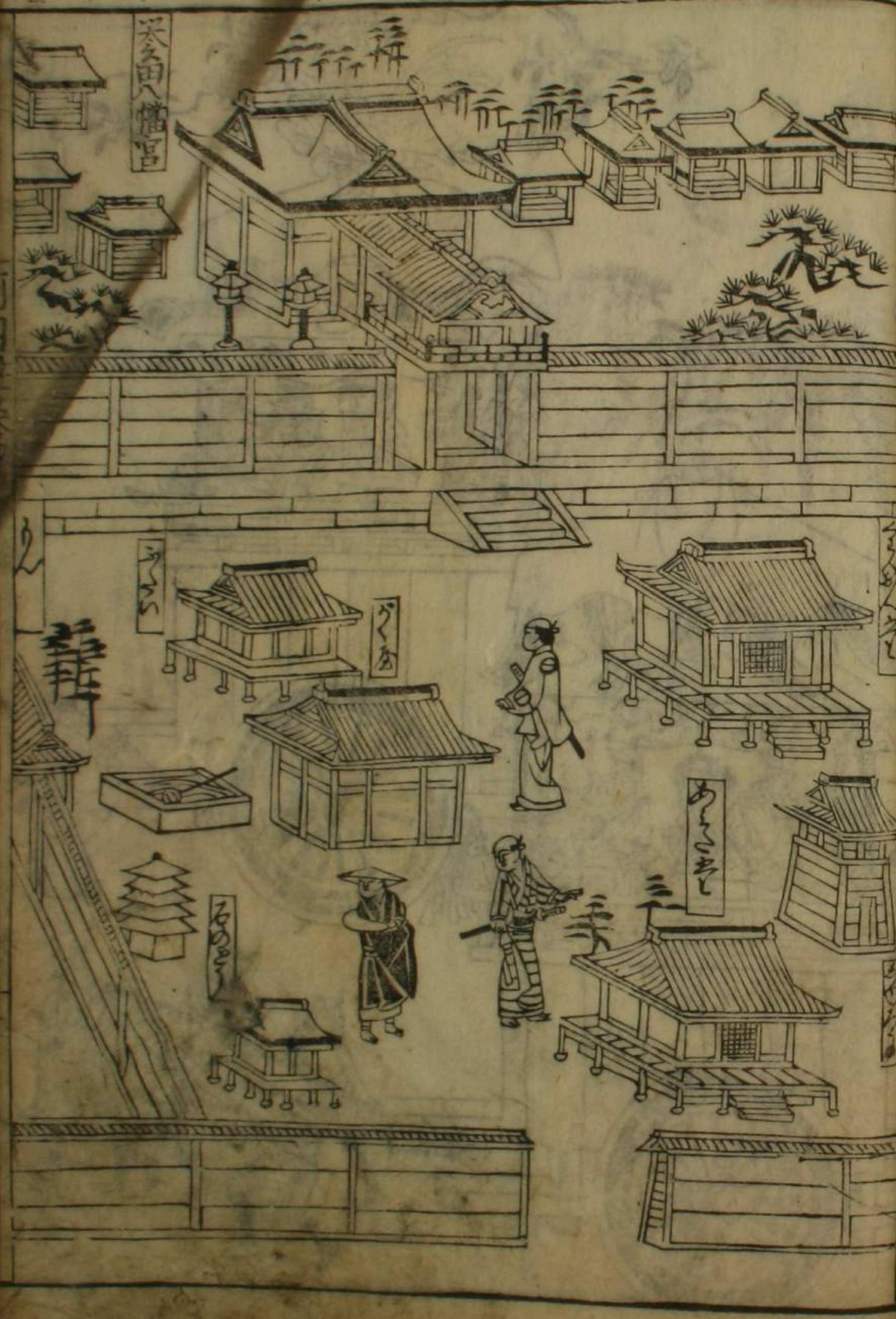
石の宮

山門

おのの宮

まの宮

石の宮



天皇御所





○雄井の基菩薩の池の井あり升陸院と云寺
あり山号の宝山十一面観音の池長一尺二寸五分の池
此沙門太子の池新堂あり平以天王やありあり

每雄

ぞんとほ雄井八里の米はうの基のうのうの
ふううの井と云の氷り那
うすのうのた人由徳と云る
たれと云うの井と云るのあは小町
うも井あ人のたよ胡蝶の狂い
涼もふのた粉と云雄井の
阿雨と云まのうのうの初紅紫

政云
重房
勇豆
正信
可正
政云

推古天皇御三十四年於寺聖德太子開基必不と土師の里を
 以ひ約り土師連八詔取りく佛圖卷となく入建立はじり
 と也又から大素淨らめひ一と亦木榎樹生かゆりいとも
 魚門ともて人と數珠小けおすさゆりい本れ下に交れあてり
 れりも中に面あり也土師姓い人我約よ初くいまやう
 と忍い一物せる人也まま一忍一けて海といおりらゆり也り
 かつあるとも八詔り聖飛乃いくのうまく變化の物也とも
 亦まま一心方なく也もれ物らかりぬかもくこを指しももを
 八詔りくもいひの假名行不とまやうにありて物ともや
 とおひて物とも人志のまりておりてしとなてるこひもり

○道の寺



つる層とれつるつる層はたそつるふかつるまつる
まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる

あまの原南まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる

是つ三五斗まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる
まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる
まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる
まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつるまつるまつるまつるまつる

宇三村上天皇御宇
天曆元年御小御御社と立始九月廿五日天神と立天御大り

天神とありありありありありありありありありあり

社と立二丁九右梅と立天御大り在天社とありありあり

本堂八十一面觀音御堂一刀三乳天神の御代之素師とあり

一以神神以境後宇多院
御初前 一以宇多院御筆天神あり
名号あり

一以梅の繪天神の御代之素師とあり

一以勢まゝ也天神の御代之素師とあり

一以境 常御持とあり

一以梅まゝ 内御持とあり

一以香まゝ 一合まゝ今番とあり

一善巧方便境 一觀音賢境

一法苑まゝ一初傳教大師也 一無名まゝ次

一阿字觀河鏡あり

一佛舍利

一川源 一尺七寸

是ハ八幡寺あり云々

右河手なるに菅原相公伯耆守河内守人選り多言傳傳り

奥天徳天皇徳田命と云いふは神祕をいふと云

伐く將軍河津朱平のつとに権現標川制札あり

相并

一利

まゝとく交はらむとせしむるに交わすてふ尼れりとい

日

正蔵

乃のちあつとすうふり飯を家生とてむかへりて

日

唯正

天月ふまきと波とやと云はれしはまう白とありといふ

梅のりう園法とてうくる明ち

信之

受

海川園う梅白くめむ神社

一利

乃明ちれり飯をむらふ米花

孫信

飼くや多かりと里し都へ

一十

引ついと道の寺といふ符あり

如真

大向ハ引手尼ぬれり飯小

如元

引飯とつとやあま津うと代衣

意朝

わつひし天神かさつたのち

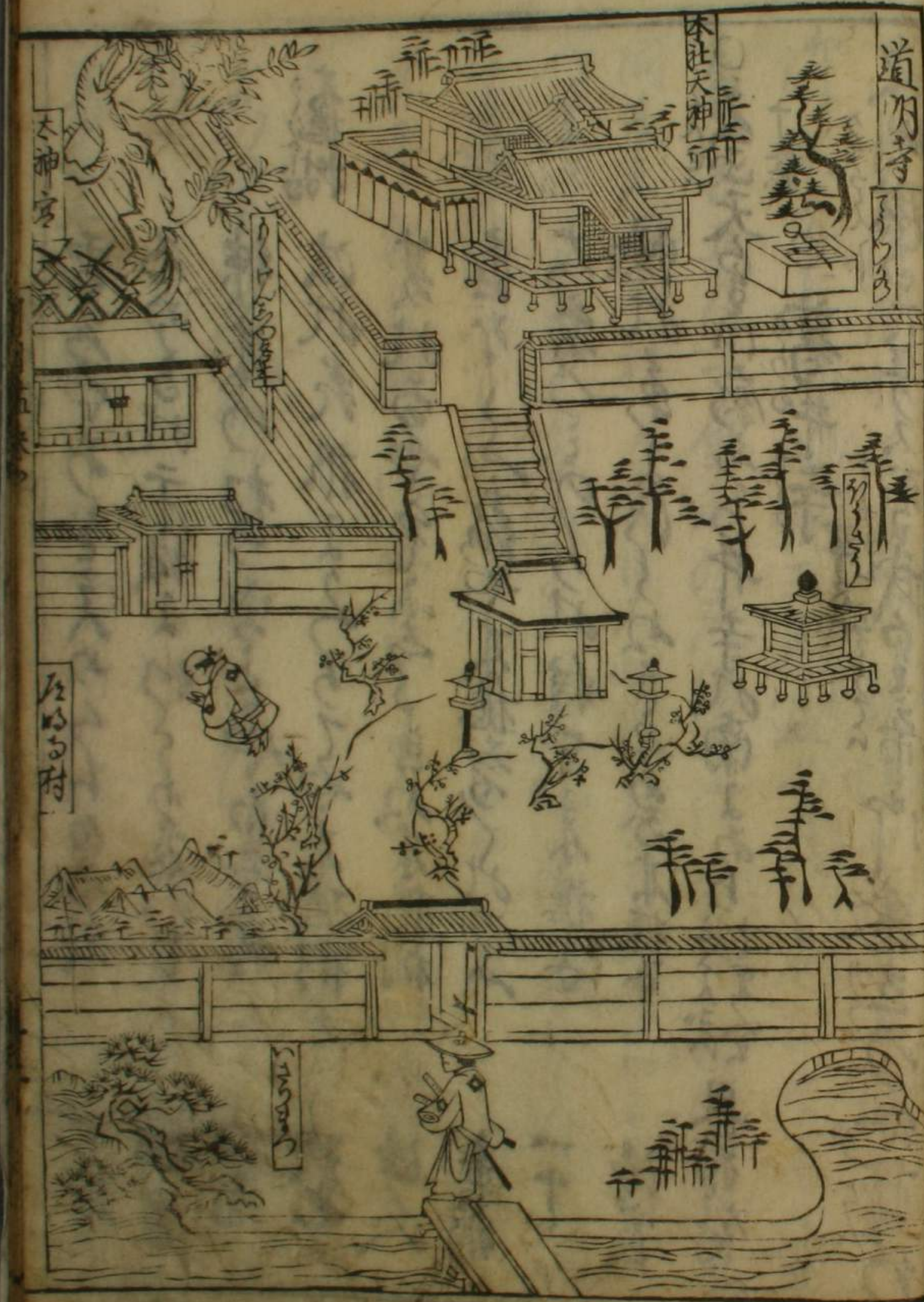
弘孝

クさうらうそのまうひやとるの寺

言周

乃の寺津とていふ交あり

正泰



雷乃也やあをきえめりり白ち又
乃のちれ千飯よ似くりあはれ官

可房

律本乃ねの雷りや白ち又

耕愚

木樨樹

法れ表根よりりてや木樨樹

如元

其れるややふふくまふ木樨樹

以也

金なくふふ海や木樨樹く此つふ

澤久

大衆乃このりれ梓や木樨子

二十

快れあふはくくぬささめあ木樨子

澤宣

○及正天白

乃廟より井寺れ南よりあり

墨村傳

十の

葛井寺

又剛琳

乃武白帝

乃建乃伽藍

基堂障開眼供出乃梵場也加之平城天皇

沖秋くく阿保親王五遠乃精舎也本乃千の觀

高以長五尺二寸金色れ所像也乃初像の觀也

同本天照太神と春日太神と祓育文祓育と云云

乃法師と爰一多ひく一刀三礼と作り心りり六十六の

有納れ不三十三不煩礼乃地なり

業平約長興ノ院造之く多ひく云同江あり

觀可 榮貞

まのりる短人けり友井ち花れ地紙しむく此れを

曰 清重

葛井寺れ系屋にとち乃花あきあつて同系乃

観音

久任

大慈れり知恵れ夫しなり観音れ力ニ極てる友井ちりれ
 如きくこの心拈云や素より友井寺
 とさうや花よこじんう友井寺
 友井ち花れ波りや慈照の波
 短尺ち花の札也や友井寺
 観音れ慈照とくくや友井寺
 明礼やなまきりくくくや友井寺
 多ひしやうそこのや友井寺
 観音れ慈照とくくや友井寺
 一雅
 良徳
 正賢
 忠之
 勝信
 梵達
 友好
 政也



くろくんとくしん

友井寺

くろくんとくしん

くろくんとくしん

友井村

○熱社村社在天照古祿春日大明祿位吉大御孫山
河津前寛文十一年戎冬竹乃子二女生也

竹乃子の月也熱社より移る

利常

○二十代允恭天皇河内國村よま市野山と名

○潮音寺沙門独長建立れち也土面觀音ウツミ三尊あり

三社を八幡伯吉傍より清掃とあり

○成美千軒いねのちのせんと云伽藍あり堂塔の其基井井之

○又地乃月ぢのつき清ありと云通乃乃つらな三つあり

野奇

久任

允恭河内國よま市野山と名

日

一利

名をさると云熱社河内國乃雷と云れは乃乃三女一のあり

日

意報

そのうとれかんの敷かき子世より立はくはしといふ千々ん

志乃乃ぬ乃花乃乃清也ちのつらな潮音寺

地乃月ありと云清乃清也ぢのつき夜夜

神乃縁かみじと云ひ一い處ところ乃清也

すゞやうやむらう地乃月の清あり

清ありと云乃乃月ハ地乃月か

冷ひや乃乃乃乃也地乃月の清あり

浪風也尾花乃乃乃潮音寺

月二つきん乃地乃月の清あり

一利

竹意

國府村

河内鑑卷四

戊午年也

山之神



○舟橋村の仙花乃子咲の久み

舟橋や世小のひまわり氷仙花

保友

舟橋や一町のありてん花

正元

○當宗神社志比の首を幣使立四月高自宗を

夕くらや少のひまわり宗乃社堂

正元

○小糸天神志比乃天神志比の天照之神表目五郎り海す

小糸れ時山一とや梅乃苑

重良

練かん梅小糸九代つき木乃

西島

梅れ繪い定系天神乃孫うか

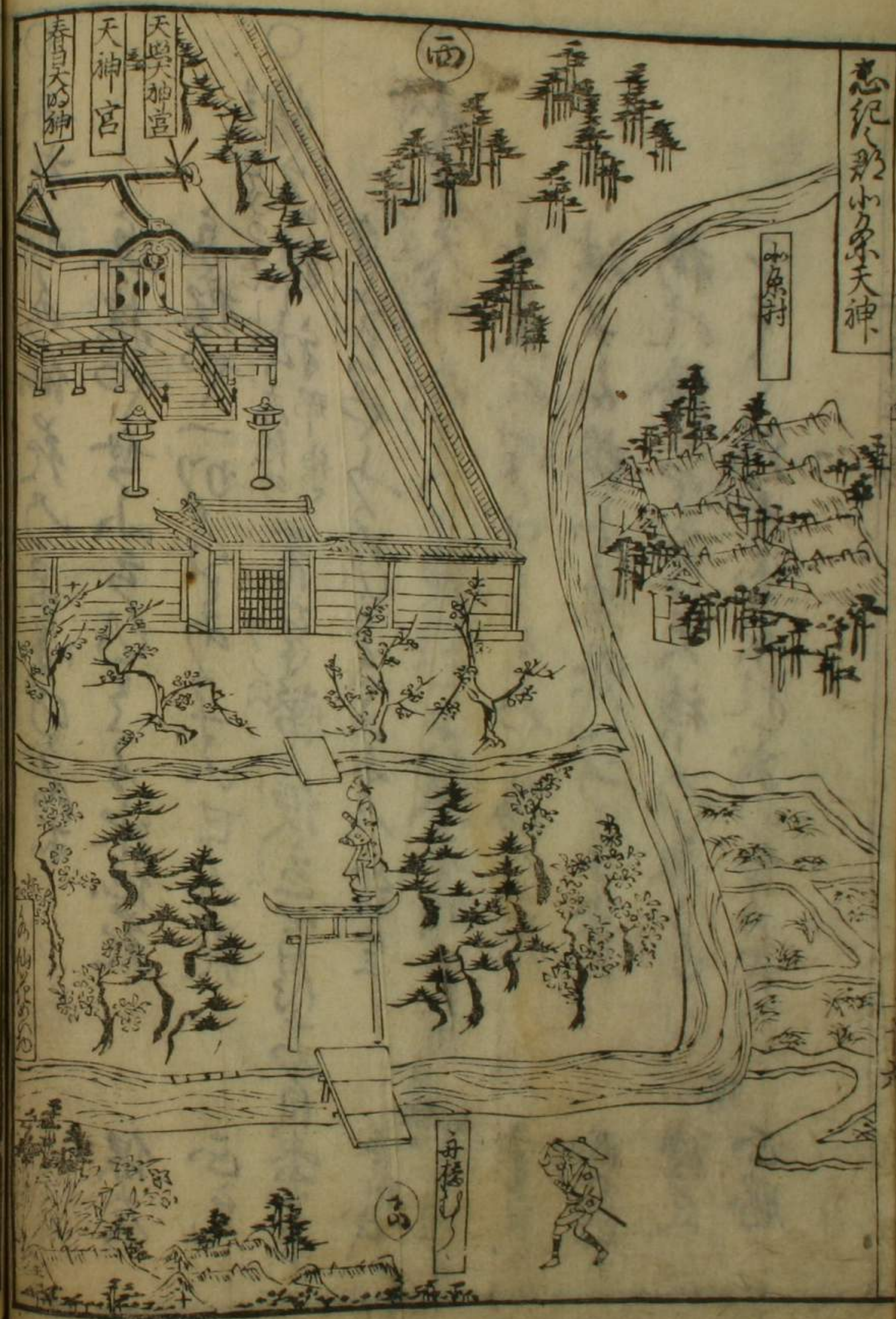
津久

とそく海を小糸れ表の志くら

正勝

志紀郡小糸天神

小糸村



○拍原寺觀音四谷河津本ハ昔井寺ノ觀音ニ因本

物有文物有物有主ハ河津也業師一尺寺河津院一尺寺

惠公乃以化也法昌年以天王也やうふれ表じうハ

大さなる表うく有々々と元和申り又月拍原院ニ

百の切又寛永十有の存日有是色ゆりて河津森

破矢一とくお沙りよ今あり清なるわや

真室令剛山ハ系清ありしわう拍原村津久亭ナ

為本ありひく表くゆまくと物流しゆり表り而る也

よ真室いもう方こわいひひさりきさひなひのうを

のりまよありこさやゆまといひるよ志ううとんわらよまら

いさるけいおとせんとゆりま今もまじひと云ゆりなれはま附

河津院

一尺寺



此地にけさの郡そとこつれ多ふ志紀の郡とて分れ
 夏川れ海を郡かん志とてわ
 清水よりふたふむやうありむらまに
 志紀の郡とてわ
 冬況ととりのあひく
 輝やわ
 志紀の郡の境とて世話よりあそむる境はひさうの
 ね奇
 久任
 常改
 夏川れ海を郡かん志とてわ
 清水よりふたふむやうありむらまに
 志紀の郡とてわ
 冬況ととりのあひく
 輝やわ
 志紀の郡の境とて世話よりあそむる境はひさうの
 ね奇
 久任
 常改

○^{イナ}弓削^{あり} 玄^ハ寶^ハ隆^ハ郡^ハ旧^ハ池^ハあり^ハ延^ハ令^ハ水^ハ乃^ハ井^ハあり^ハ
守^ハ倉^ハ旧^ハ池^ハを^ハ八^ハ幡^ハま^ハ目^ハ井^ハ以^ハ天^ハ皇^ハ府^ハ郡^ハの^ハ大^ハの^ハ社^ハ有^ハ
玄^ハ池^ハも^ハい^ハび^ハ乃^ハ河^ハ原^ハの^ハ埋^ハ本^ハれ^ハ形^ハ海^ハも^ハさ^ハと^ハい^ハあり^ハあり^ハ

和奇

友和

乃^ハ多^ハあり^ハあ^ハん^ハめ^ハ氷^ハよ^ハま^ハと^ハん^ハて^ハい^ハま^ハれ^ハ里^ハも^ハあ^ハり^ハ符^ハも^ハあ^ハり

年^ハ此^ハ矣^ハの^ハ手^ハつ^ハか^ハひ^ハと^ハう^ハと^ハ割^ハぬ^ハ

棟敷

鶯^ハの^ハ花^ハれ^ハち^ハ倉^ハり^ハ弓^ハ削^ハ一^ハ中^ハの^ハ里^ハ

為三

山^ハ回^ハも^ハり^ハそ^ハう^ハ門^ハや^ハ弓^ハ削^ハれ^ハ本^ハ地^ハ也^ハ

重良

○^ハ沼^ハ村^ハあ^ハら^ハぶ^ハ凡^ハく^ハ也^ハ

○^ハ大^ハ回^ハく^ハづ^ハく^ハ也^ハ

○^ハ本^ハの^ハ中^ハり^ハん^ハい^ハや^ハり^ハ也^ハ

○大井常樂寺

堂^ハ乃^ハ本^ハ寺^ハの^ハ業^ハ師^ハ如^ハ来^ハ^ハ乃^ハ基^ハ菩^ハ薩^ハ乃^ハ所^ハ池^ハ

西^ハ乃^ハ殿^ハ立^ハ河^ハ保^ハ陀^ハ東^ハ乃^ハ殿^ハ立^ハ秋^ハ也^ハ^ハ乃^ハ法^ハ也^ハ乃^ハ平^ハ歌^ハ天^ハ王^ハ社^ハ立^ハ

和奇

秀綱

茲^ハ病^ハと^ハ八^ハ幡^ハん^ハう^ハい^ハの^ハう^ハり^ハ人^ハと^ハ利^ハ益^ハの^ハ大^ハ井^ハ業^ハ師^ハ也^ハり

十二^ハ社^ハや^ハ大^ハ井^ハを^ハ杖^ハ乃^ハや^ハり^ハ業^ハ

兩謙

い^ハ乃^ハり^ハて^ハや^ハ利^ハ生^ハ大^ハ井^ハれ^ハ業^ハ師^ハ業^ハ

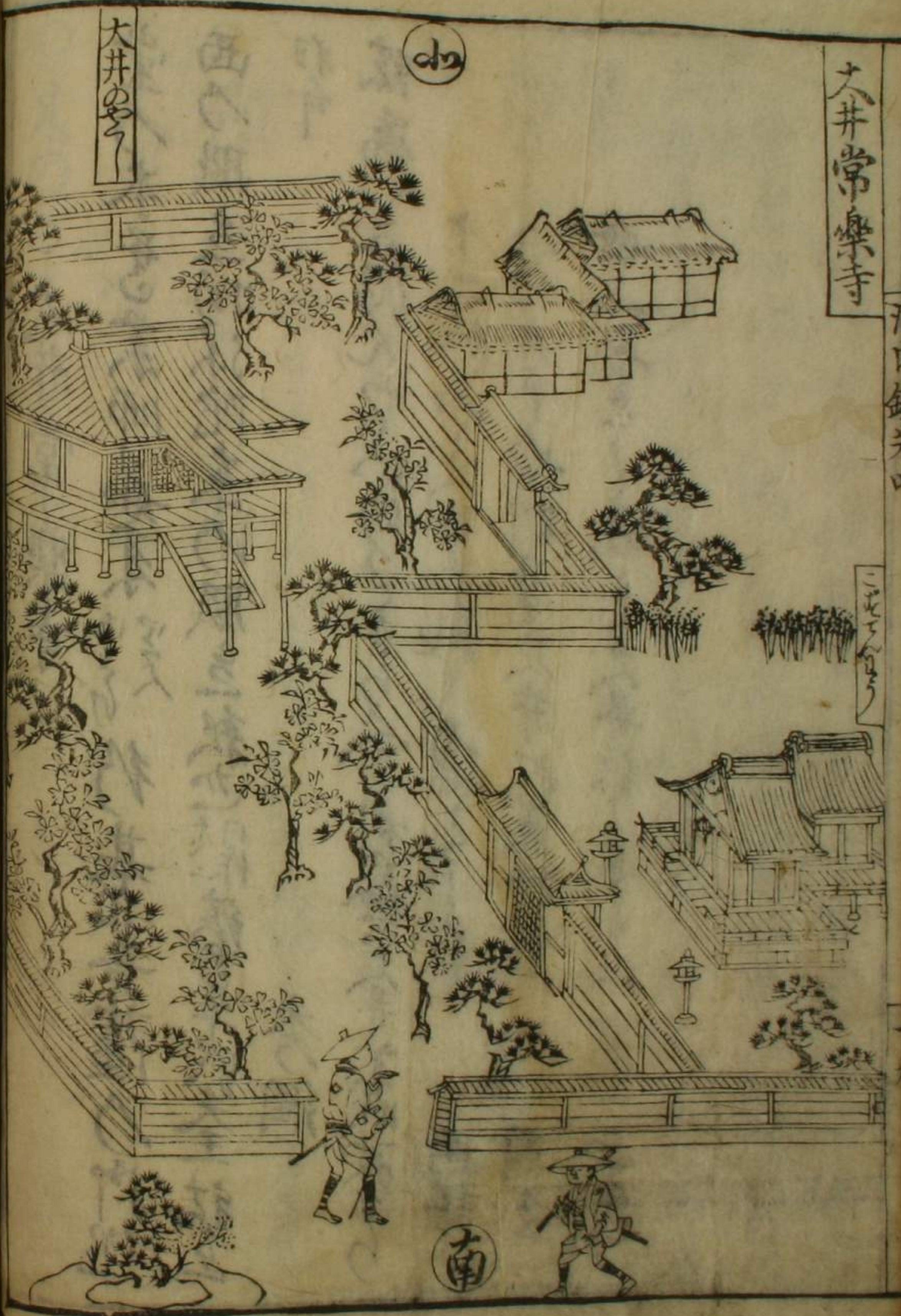
周系

世^ハふ^ハあ^ハま^ハし^ハ味^ハと^ハ大^ハ井^ハに^ハま^ハさ^ハり^ハん

正元

大井常樂寺

河内鉦巻四



○小山三好山城も康重入道笑岩古歌に

和奇

久任

雲に雪ふゆふ小山乃花盛をまよふれ古歌をあらと

曰

正之

しらつとほくく小山とかりふり雪少味やまよふれ糸

茅草や小山と傍むらうら

月夜うらうらうられ城の山

城山を遊むのめくろみちり

小山かりり富士うらゆまかき

○人皇二十代雄略天皇此廟傳泉村立世傳丸宮云

芳れ海や丸山と沖乃傳る

河内鉦巻四

三

小山三好古城

三好氏の古跡

徳川村

雄略天皇御所

小山の町



○人王五十一代平城天皇皇子阿保親王兼平城親王
 比奈小御多の御代に故よみれ名を阿保村と申すなりと云は
 たりしに今より西に保東の保とて二村を東に保河に有
 るよしと云ふと東河保村なる系を叙す

重成

○親王比奈の父なる池原の門下はよりあんなんわりの見
 比奈もくも色ゆかりあやうしく思ひいらりてつひにまゐる
 得しものそとふ本と池の中よまきしむり見たりと申す
 と云ふはいそこの村なるれい又里人のれらこのそとふ本とを今有
 一見率都安永歌三悪道かきけりり里人のあこ道り人れ
 一返り廻りてさうく六旅人もやまかきと撥界さうひりりたて
 相許

宗信

江よりいびりし今に思ふ池の水に教くそとふ木乃文

七更やうのつもとんはう思ふ池

一十

そとしんかたそれおちや思ふ池

改長

思ふ池水やうももる率初婆うか

可法

思ふ池をいこも月乃新法師

元由

うさかろせいはらるもわん思ふ池

宣休

氷面凍らんく化粧せよらこり池

常有

降雪も氷れありや思ふ池

一十

○阿保親王御廟大塚と云山也

去や是月乃くもやすの塚下

光榮

大塚やうしとるうの木の石



○中村若ハ觀者堂居安そ大ノ有クク
○山極山也
今ハカサニ入ル
正觀者ノ佛ナリ

○山ノ名トスルヤ或ク
河別山
正利

○名村永志山本ノ寺法苑寺也本國寺此來也

○三宅村十一面觀者山本春日見他天晴此社有寺法苑有

○丸散村弘法師面りちの時此とを名ヲ謂者て凡ノりて

○珠寺村觀者堂若ハありと曰此あり

○天見山と云社枯木村以内有ありと云ひて

○中ハ半臥天皇ノ末ハ春日大御神西ハ我村ハ社也

○行基居後乃寺あり

○中ノ村ハ業師師村ノ業師也此長一尺二寸

○徳道村慈現寺本尊ノ聖觀者繪佛也金器ノ業也
以長二尺五又本像正觀音計長一尺六寸

溪初やハ山安安慈現比もろ智
友好

法れ花よもんぢりちり花枝も
成之

慈現あり本尊とくけよ郎一
卜人

已が在ふり名業をらるる人村
友定

時多たをばはるやんに志んし
栄貞

物觀者ありやを乃乃すんぢり
俊栄

観者系摘ハ慈現寺ノ氣生る
重勝

相寄

秀綱

夕々つに大水われし布懸川をハ何丈何尺のあゆ
日也

澤久

夕々つに大水われし布懸川浪を志ハくそをいふ

系にふる物や布懸乃川新 安未

卯此花乃波りしゆす布懸川 光榮

波やちりよす向ちる布懸川 政公

布懸川鮎乃さみや系遠 重成

涼一ちりよす布懸川 清重

川はらとさくも布懸氷子 好貞

氷河やあ強とすり布懸川 則武

布懸七村

三木村観者

ぬのせ川

向村の観者



○長為根着公真正井浦より清浄光院時迄今公善興寺号立
 ○金田村金田位一田迄より金田の淵をわたり一條院時今
 定大納言至大社三社立年久天王 反言大社 山王権現 繪るるありと云ふ
 中く他りゆとありと里人伝中金田つらり金田ありと云ふ
 と又道中より金田の屏凡緒と云ふありと云ふと云ふありと云ふ
 有り金田村茶師より春同の聖觀音中長天王 秋長尊 立祀と云ふ人伝と
 金田の淵 一と云ふ井と云ふありと云ふ

○花田村池浦を觀るゆ長三文字山分折基田池長其長あり

陽美乃池の狩子やうみ のいけのかうこ 狩うふと云ふ
 枯木かきも嘆なげや花田の觀音寺
 ちりちりハハハと云ふありと云ふありと云ふ
 と月約花田よりありと云ふありと云ふ
 極ハハハハハと云ふありと云ふありと云ふ

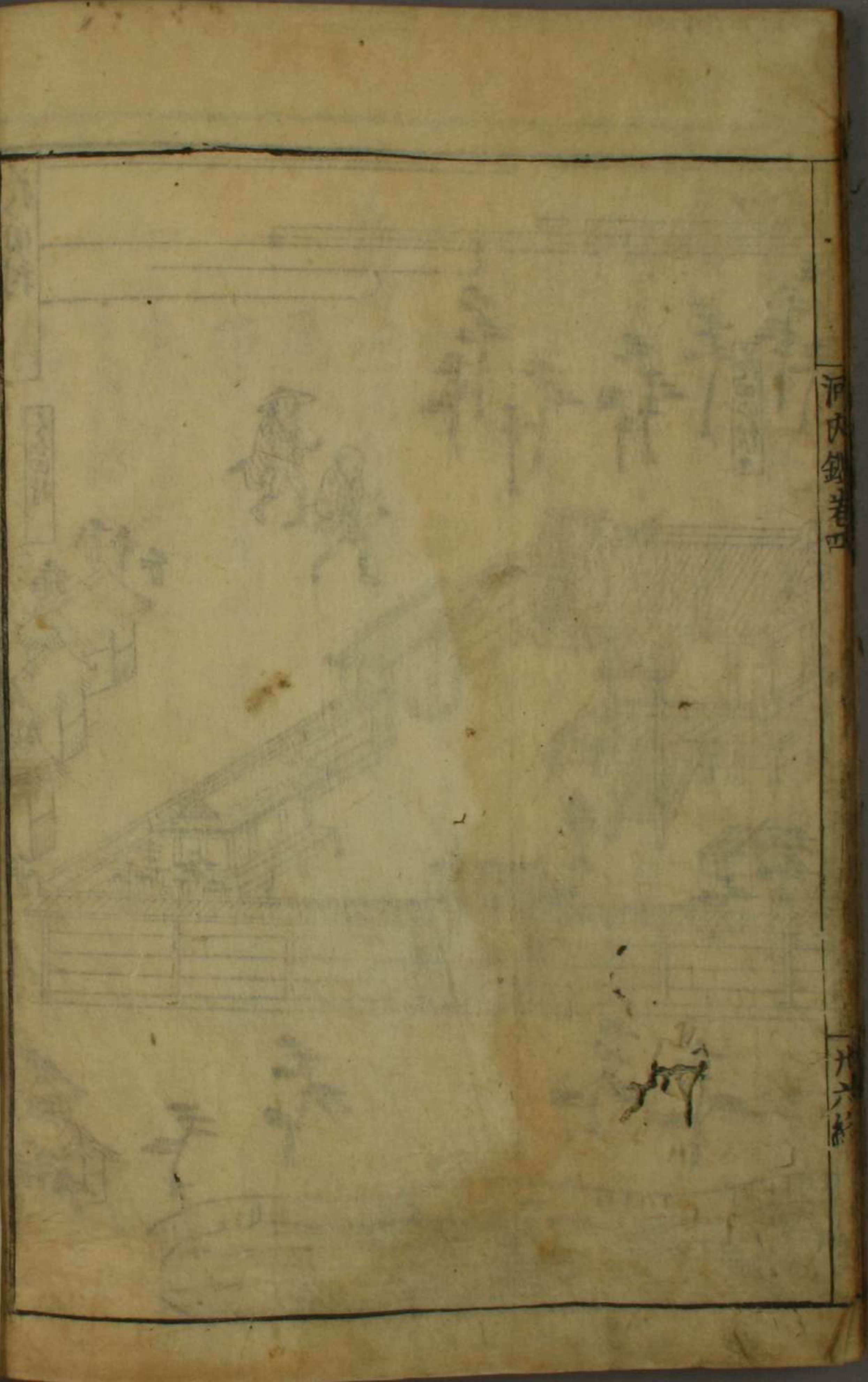
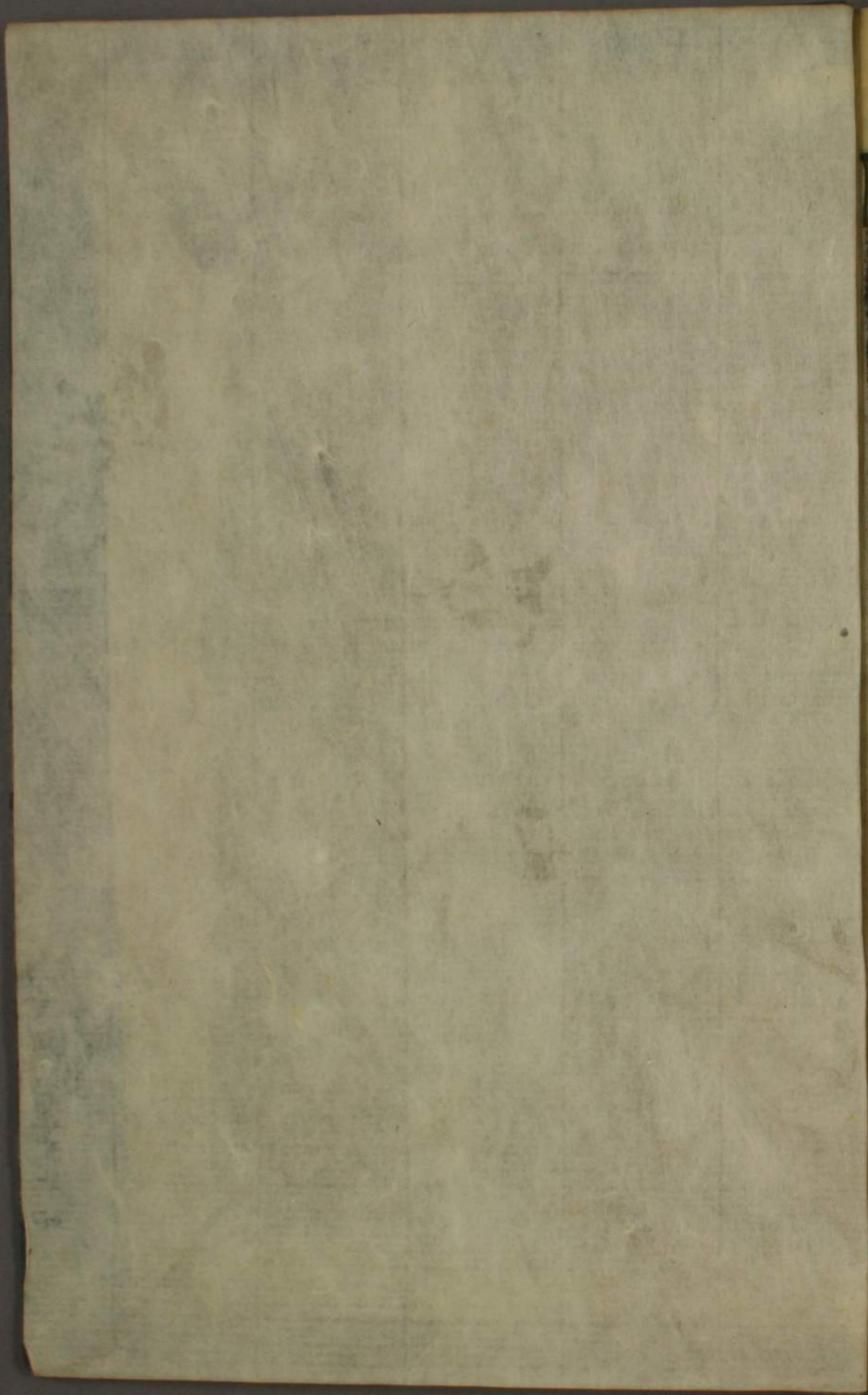
貞弘
 貞弘
 正寛
 政云
 同



花田村

又金田村

花田の池



河内縣志
卷四

六
六

